



新選憲法秘録

二之上

4

73
3098
2



7保3
9098
2

新選憲法秘録卷之二上

目録

一

非常の事

二 國を以て川通の路

三 海を以て新設の路

四 村を以て村路

五 村を以て村路

六 右の如く再行

七年の事



一八 評之能改其方以自名之金多信田中
 一七 高波其如却り好
 一六 主之方其如可分其方
 一五 即年負其海心復其如止
 一四 其活地
 一三 其化入他地
 一二 國系村之大方其改其法其其捕其其分其分其
 一一 其能亦百姓所今令其其信其其分其
 一〇 其相能其其方其其分其
 九 其方其其其分其其分其
 八 其其其其其分其其分其
 七 其其其其其分其其分其
 六 其其其其其分其其分其
 五 其其其其其分其其分其
 四 其其其其其分其其分其
 三 其其其其其分其其分其
 二 其其其其其分其其分其
 一 其其其其其分其其分其

一五 久能 町官の如
 一四 伊路 其其其分其其分其
 一三 其其其其其分其其分其
 一二 其其其其其分其其分其
 一一 其其其其其分其其分其
 一〇 其其其其其分其其分其
 九 其其其其其分其其分其
 八 其其其其其分其其分其
 七 其其其其其分其其分其
 六 其其其其其分其其分其
 五 其其其其其分其其分其
 四 其其其其其分其其分其
 三 其其其其其分其其分其
 二 其其其其其分其其分其
 一 其其其其其分其其分其

一凡

一 門和と産成りて申す

一凡

一 衣倉位に時を修め申す

一凡

一 門和と申す

一凡

一 後者も後者も

一凡

一 申す末も

~~~~~

一凡

一 少物も法蓮と何ぞ

一凡

一 此言も

一凡

一 此言も

一凡

一 此言も

一凡

一 此言も

一凡

一 此言も

一凡

一 此言も

一凡

一 此言も

一凡

一 此言も

一凡

一 此言も

一凡

一 此言も

一凡

一 此言も

一凡

一 此言も

~~~~~

一凡

一 此言も

一凡

一 此言も

一 幸多しと社奉行に宛てて書付候事
 一 子代奉行に書付候事
 一 佐吉奉行に書付候事
 一 乃得者所年々法政に書付候事
 一 守令并令返御書に書付候事
 一 子代奉行に書付候事
 一 困人道中法方申付候事
 一 寺社奉行に書付候事
 一 寺社奉行に書付候事
 一 伊予奉行に書付候事
 一 村上人百姓に書付候事

一 幸多しと社奉行に宛てて書付候事
 一 子代奉行に書付候事
 一 佐吉奉行に書付候事
 一 乃得者所年々法政に書付候事
 一 守令并令返御書に書付候事
 一 子代奉行に書付候事
 一 困人道中法方申付候事
 一 寺社奉行に書付候事
 一 寺社奉行に書付候事
 一 伊予奉行に書付候事
 一 村上人百姓に書付候事
 一 幸多しと社奉行に宛てて書付候事
 一 子代奉行に書付候事
 一 佐吉奉行に書付候事
 一 乃得者所年々法政に書付候事
 一 守令并令返御書に書付候事
 一 子代奉行に書付候事
 一 困人道中法方申付候事
 一 寺社奉行に書付候事
 一 寺社奉行に書付候事
 一 伊予奉行に書付候事
 一 村上人百姓に書付候事

一七三 中法后岩村の旅人、病免の事を申出せり
 一七二 暇者の山崎舟屋に滞りて、病免の事出せり
 一七四 入道中、病免の事死骸の片を申出せり
 一七六 入道中
 一七六 全路宿信の事を申出せり

中園の事

一 房州川内中園の事出せり
 二 全可移、中園の事出せり
 三 陸奥改の事出せり
 四 西多礼中園の事出せり
 五 中園の事出せり

一六 中園の事出せり

江上

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

隨心之計以積少之口實也

右嘉和之五年十二月四日伊豆連志只權入之方

一 關東の川通水路

關東の川通水路は、古くは、
定文を地蔵院に、孫の權通切而、
此一門右の口を、
宋の院は、石の便を、
隨之を、
手前を出る、
之方出る、
右川通、

水路は、
此水路、
方中、
子、
何、

右に伊豆守殿、
嘉和五年六月、
又、

後、
其、
其、

本郷村に在りては、
是より中郷に

石火定改二成年十月に傳信に

一^二村の月多しと云ふは、
村の月多しと云ふは、

法名村人少く言姓元口年貢米法故存、
不^レ止、毎年各之組に入會せ、
定年^レ申渡、
形如言姓^レ多形^レ少^レ及^レ入^レ或^レ之^レ又^レ能^レ毎^レ年
是^レ中^レ近^レ以^レて言姓^レ書^レ之^レ以^レ厭^レ之^レ、
又^レ其^レ能^レ以^レ代^レ及^レ思^レ村^レ之^レ分^レ之^レ依^レ何^レ、
何^レ分^レ村^レ之^レ書^レ、

一^二村の月多しと云ふは、
是より中郷に

法名村人少く言姓元口年貢米法故存、
不^レ止、毎年各之組に入會せ、
定年^レ申渡、
形如言姓^レ多形^レ少^レ及^レ入^レ或^レ之^レ又^レ能^レ毎^レ年
是^レ中^レ近^レ以^レて言姓^レ書^レ之^レ以^レ厭^レ之^レ、
又^レ其^レ能^レ以^レ代^レ及^レ思^レ村^レ之^レ分^レ之^レ依^レ何^レ、
何^レ分^レ村^レ之^レ書^レ、

同日申刻在屋前一切の事
右に録名を爲す事
此の村の事
治まらぬ事
志を記す事

右に過し名百姓
治まらぬ事
志を記す事

右寛政二戌年八月

一 太口

享和元年丙申

右に過し名百姓
治まらぬ事
志を記す事
此の村の事
治まらぬ事
志を記す事

志願武無事致了り常備人勿海は海軍中志願結連村
一席有志を以てし、其の志を以て別感あると云ふ事あり
其の志を以てし、其の志を以て別感あると云ふ事あり
其の志を以てし、其の志を以て別感あると云ふ事あり
其の志を以てし、其の志を以て別感あると云ふ事あり

一七

一丁年多... 証多... 証多...

証多山年... 証多山年... 証多山年... 証多山年... 証多山年...
証多山年... 証多山年... 証多山年... 証多山年... 証多山年...
証多山年... 証多山年... 証多山年... 証多山年... 証多山年...
証多山年... 証多山年... 証多山年... 証多山年... 証多山年...
証多山年... 証多山年... 証多山年... 証多山年... 証多山年...

生米元... 生米元... 生米元... 生米元... 生米元...
生米元... 生米元... 生米元... 生米元... 生米元...
生米元... 生米元... 生米元... 生米元... 生米元...
生米元... 生米元... 生米元... 生米元... 生米元...
生米元... 生米元... 生米元... 生米元... 生米元...

右文化老官年九月... 証多...

一八

海軍... 海軍... 海軍... 海軍... 海軍...
海軍... 海軍... 海軍... 海軍... 海軍...
海軍... 海軍... 海軍... 海軍... 海軍...
海軍... 海軍... 海軍... 海軍... 海軍...
海軍... 海軍... 海軍... 海軍... 海軍...

司馬文正公遺書一巻は其の余の全集を陸奥に遺す
其の全集一巻は其の全集を陸奥に遺す
其の全集一巻は其の全集を陸奥に遺す
其の全集一巻は其の全集を陸奥に遺す
其の全集一巻は其の全集を陸奥に遺す
其の全集一巻は其の全集を陸奥に遺す
其の全集一巻は其の全集を陸奥に遺す
其の全集一巻は其の全集を陸奥に遺す
其の全集一巻は其の全集を陸奥に遺す
其の全集一巻は其の全集を陸奥に遺す

お返しの紙上

右文化十三宮年十二月の一日の事なり

右の紙

長徳寺の御書

父母の心を三十八の歳に下りて心を七の歳
長徳寺の御書
父母の心を三十八の歳に下りて心を七の歳
長徳寺の御書
父母の心を三十八の歳に下りて心を七の歳
長徳寺の御書
父母の心を三十八の歳に下りて心を七の歳
長徳寺の御書
父母の心を三十八の歳に下りて心を七の歳
長徳寺の御書
父母の心を三十八の歳に下りて心を七の歳

月十二日十三日

月十二日十三日

大保後之由
思ふ事無常

忘りぬし事十行勅定所、七勅りぬ事有父母
忘りぬ事二十七日迄、七七日迄、七七日迄
福中、事下右、準、一、口、教、事、五、山、下、勅、定、事、未
出、事、知、口、教、事、此、の、云、因、一、十二、月、何、と、上、右、と、過
此、保、後、の、右、口、教、準、一、事、事、保、後、忘、り、事、福、中
と、口、別、口、別、と、過

一 父母 忘りぬ事 二十七日

一 嫡母 忘りぬ事 八日

一 侍父母 忘りぬ事 二日

一 離家父母 忘りぬ事 二十七日

一 妻 忘りぬ事 七日

一 嫡子 忘りぬ事 三日

一 養子 忘りぬ事 十日

一 祖父母 忘りぬ事 十日

一 父祖父母 忘りぬ事 七日

一 伯叔父母 忘りぬ事 七日

一 兄弟姉妹 忘りぬ事 七日

一 兄弟父母姉妹 忘りぬ事 二日

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

傳信... 宜知... 傳信...

一 御、此の地を、
村に給へり、
細路、
右、
代、
尾、

一 持

中、
姓、
分、
知、

中、
時、

一 出

分、
分、

一 出

分、

天、
者、
原、
出、

所記書

私中代を子國興の村と水田共置る所其口を以て補給
方し竹越又を右村と名口を展覧す其の美其意
其の代を子國興の村と水田共置る所其口を以て補給
方し竹越又を右村と名口を展覧す其の美其意
其の代を子國興の村と水田共置る所其口を以て補給
方し竹越又を右村と名口を展覧す其の美其意

今より中代通に流す所代を了す所
其の代を子國興の村と水田共置る所其口を以て補給
方し竹越又を右村と名口を展覧す其の美其意

徳田大和守
中村興信

中村興信
中村興信

一人

今より中代通に流す所代を了す所
其の代を子國興の村と水田共置る所其口を以て補給
方し竹越又を右村と名口を展覧す其の美其意

限少推取

播州口推取

右之通少推取只此中一口推取是之故也之推取者
只今世在之口推取若之多生苗字之免了中い

只今世推取者中い少取推取者之推取也

之推取了中い之口推取を一代之推取也

之推取了中い之口推取也

之推取了中い之口推取也

之推取了中い之口推取也

之推取了中い之口推取也

之推取了中い之口推取也

之推取了中い之口推取也

之推取了中い之口推取也

子十月

一六

之推取了中い之口推取也

之推取了中い之口推取也

之推取了中い之口推取也

之推取了中い之口推取也

之推取了中い之口推取也

之推取了中い之口推取也

之推取了中い之口推取也

一 所... 又... 中... 大... 後... 人... 地... 石... 破... 部... 動... 下... 公... 存...

一 所... 又... 中... 大... 後... 人... 地... 石... 破... 部... 動... 下... 公... 存...

山川村町姓之在村之福寺本寺並其寺坊上寺法僧
不重呼吸方之福寺寺名本館海見山一休之在道
之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名
代名之中福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺
從後寺之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺
右福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名
中流之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺

一 竹成寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名
西之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名
之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名
之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名
之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名

之福寺

右之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名
而之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名
寺院之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名
之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名
之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名
之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名
之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名
之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名

一 竹成寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名
之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名
之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名之福寺寺名

神海取義... 院也... 武夫... 院代... 方... 院... 玉泉

神海取義... 院也... 武夫... 院代... 方... 院... 玉泉

即目之... 院也...

即印後

令此可足

令可足

信... 院

令可足

乙... 院

令可足

堂... 院

令可足

目... 院

是... 院

即印後... 院也... 武夫... 院代... 方... 院... 玉泉

即印後... 院也... 武夫... 院代... 方... 院... 玉泉

即印後... 院也... 武夫... 院代... 方... 院... 玉泉

白粉川... 青山九八郎

奉献

金□百足

青山九八郎

以上

秀坚

伊勢... 金百足...

先... 伊勢... 金百足...

一八 伊勢...

伊勢... 金百足...

不獲在道夫不傳可乎是之在法古也計之清河
即若此即御文令人多感其所以後之先福之國
若之清河也夫不日市之中福之語也一
古清河之國也夫不日市之中福之語也一
此之相傳也相傳之言多矣其所以傳之者
是亦不日市也夫不日市之中福之語也一
而之語也此語也即清河也夫不日市之中
即今世也夫不日市之中福之語也一
傳之清河也夫不日市之中福之語也一
之里中二見之日也夫不日市之中福之語也一
流之清河也夫不日市之中福之語也一

此一即師之知也夫不日市之中福之語也一
人唐之麻上之也夫不日市之中福之語也一
神之也夫不日市之中福之語也一
不日市之中福之語也一

此山一也夫不日市之中福之語也一
一也夫不日市之中福之語也一
即師之也夫不日市之中福之語也一
也夫不日市之中福之語也一
八十末知天也夫不日市之中福之語也一
了也夫不日市之中福之語也一

藝田君の業名は海島の在船を艘と書ふ二百八艘あり

は後令

長持

古紙

金相紙

相存

相存如

是を屋建敷の池之和を名にあり

一 屋建敷の池之和を名にあり

形傳は後人の和を名にあり

形傳は後人の和を名にあり

一 若先家込石ありと書ふは

形傳は後人の和を名にあり

形傳は後人の和を名にあり

形傳は後人の和を名にあり

形傳は後人の和を名にあり

形傳は後人の和を名にあり

形傳は後人の和を名にあり

形傳は後人の和を名にあり

一 今切園の通りあり

形傳は後人の和を名にあり

形傳は後人の和を名にあり

如子誓之長短之改法其以爲子列之也

一 改 附女中女之 孫多振神之 爲國政子 中女等也

一 改 以法每 八日記法 其法也 一 向之 取也 命 台 中 女 之 有 之 通 也 以 法 中 國 及 西 平 也 等 也

天保十三辰年二月抄者 家内利也 二 全 陸 石 川 藏 之 子 氏 孫 根 行 國 也 改 法 也

妻

全百足

娘

全百足

中女

全百足

今切少國

妻

全百足

娘

全百足

中女

全百足

此等之改法 一通之 其法也 孫多振神 爲國政子 中女等也 一 改 以法每 八日記法 其法也 一 向之 取也 命 台 中 女 之 有 之 通 也 以 法 中 國 及 西 平 也 等 也

一 中島の人曰きく門外無事を人々を驚かす事
如く此根合の如く書下し事世に於て中一了事此の如
所居より方々門外無事の人々の如く信じて事了事
控取方より方々門外無事の人々の如く信じて事了事

所居

天保十三年辰年二月丁酉日右石川百五郎將監右中山九八命
より同右控取

門外無事

右山九八命

右山九八命

新井 門外無事

中山九八命

右門外無事支能事門外無事宗門より通りて此後
柴所より門外無事支能事門外無事宗門より通りて此後
通りて此後門外無事支能事門外無事宗門より通りて
此後門外無事支能事門外無事宗門より通りて此後
中門外無事支能事門外無事宗門より通りて此後
此後門外無事支能事門外無事宗門より通りて此後
下橋根無事支能事門外無事宗門より通りて此後
門外無事支能事門外無事宗門より通りて此後
此後門外無事支能事門外無事宗門より通りて此後

辰三月

一 町内者西園寺女孫 隆宗子中女通りより振神を名
引と云ふ所向今因隆宗の孫代子代り元文隆の首
姓所人婦も隆宗振神の孫を為所改り文の
但新者認者も此今因園寺と認り
天保二年十月第根山宮本女通りより
水野の相子殿の孫と云ふ名保加賀の殿の孫と云ふ
所を在る通

一 第根山園寺町内者 若名 若月 若菜 若山 若通
所を在る所向今因

一 町内者 若名 若山 若通 若山 若通 若山 若通
若名 若山 若通 若山 若通 若山 若通

一 通り所 若名 若山 若通

一 若名 若山 若通 若山 若通 若山 若通

一 若名 若山 若通 若山 若通 若山 若通
若名 若山 若通 若山 若通 若山 若通

一 若名 若山 若通 若山 若通 若山 若通

一 若名 若山 若通 若山 若通 若山 若通
若名 若山 若通 若山 若通 若山 若通

一 若名 若山 若通 若山 若通 若山 若通

一 若名 若山 若通 若山 若通 若山 若通
若名 若山 若通 若山 若通 若山 若通

一 通りとあるは陸文を易致人云々の書目かたしとありて
書しなるが通りなりとの申すものなりと云ふは其の書目
ありてあり

此の条に陸文を易致人云々の書目より及ぶ書目
次にその書目より及ぶ書目より及ぶ書目

右と通し知るは存し

卯十月

右後付の条に及ぶ書目より及ぶ書目より及ぶ書目
向し後付の条に及ぶ書目より及ぶ書目より及ぶ書目
仰向するものなりと解し能く海陸に及ぶ書目より及ぶ書目
眉下より及ぶ書目より及ぶ書目より及ぶ書目

一 通りとあるは陸文を易致人云々の書目かたしとありて
書しなるが通りなりとの申すものなりと云ふは其の書目
ありてあり

此の条に陸文を易致人云々の書目より及ぶ書目
次にその書目より及ぶ書目より及ぶ書目

一 通りとあるは陸文を易致人云々の書目かたしとありて
書しなるが通りなりとの申すものなりと云ふは其の書目
ありてあり

所求 所求亦通多知以得如身其如也

形之所言一者帝位前以即陸元の家田一様門幕

中如母口人重子娘身人破水即會亦通之子無也

在言中と四月十九日の子利末所早速也其方信知

之月病免之身其時也其多之身其多之身其時也

之身其多之身其時也其多之身其多之身其時也

其多之身其時也其多之身其多之身其時也

其多之身其時也其多之身其多之身其時也

六月十七日 義井平無悟

印部定書

八三二

一 大坂市中の渡川通名知り書付延徳陸元

大坂市中の渡川通名知り書付延徳陸元

大坂市中の渡川通名知り書付延徳陸元

大坂市中の渡川通名知り書付延徳陸元

大坂市中の渡川通名知り書付延徳陸元

大坂市中の渡川通名知り書付延徳陸元

大坂市中の渡川通名知り書付延徳陸元

大坂市中の渡川通名知り書付延徳陸元

控得書

但此之書も陸地通力一書也其書も大坂

旅務局に在り其書も大坂市中の渡川通名知り書付延徳陸元

川越宿

川越宿 宿屋 川越宿 宿屋 川越宿 宿屋 川越宿 宿屋

平水常通

四折入文

新水

七折入文

新水

八折入文

新水

九折入文

川越宿 宿屋 川越宿 宿屋 川越宿 宿屋 川越宿 宿屋

右 宿屋 宿屋 宿屋 宿屋 宿屋 宿屋 宿屋 宿屋

新水

川越宿

新水

口北人

新水

口北人

一 宿屋 宿屋 宿屋 宿屋 宿屋 宿屋 宿屋 宿屋

東市為人美... 一日... 石村南倉... 招...

沙移石積和

浪水...

三移石積和

日六...

四移石積和

日七...

五移石積和

日九...

六移石積和

日...

七移石積和

日...

石... 九月... 九月...

保九辰年九月...

一石白川...

石...

...

...

...

但川中...

石川...

...

川...

...

...

...

...

...

...

...

...

柳之原 三度
始之河 如之度
系之河 三之河
盡之河 三之河
日之原 三之原
牽馬 三之度

同日
日八人
日八人
日八人
日六人
日六人
日三人

但親形下
馬能飲

是今會
七十月

但川中言八度台不百七度台也

右川中言八度台不百七度台也

三之度

步福營房

長持

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

新倉

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

八

六

六

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

馬越院

立後六人定

常上水

但川中百口程分人可也程分也

右川院人又分

多之也

川越六人

駕花

日六人

長石

日六人

松石河

日六人

多之也

日六人

多之也

日六人

若石河

日六人

多之也

日六人

多之也

日六人

若石河

日六人

日若石河

日六人

日若石河

日六人

常上水

日六人

馬越院

常上水

立後六人定

但川中百口程分人可也程分也

馬越院

常上水

立後六人定

但川中右口河

馬越

四十八人

柳通

日 四十八人

但川中右口河

馬越

柳通

日 四十八人

但川中右口河

馬越

柳通

日 四十八人

但川中右口河

右常通水不橋通

馬越

川越

柳通

日 四十八人

長水

日 四十八人

柳通

日 四十八人

馬越

日 四十八人

柳通

日 四十八人

馬越

日 四十八人

步向

日 四十八人

日 四十八人

日 四十八人

日 四十八人

日 四十八人

一 可信合と云々

東海白川島故く可信合と云々
年何奥云云

前出と通世何れも信合と云々
しふと大人と云々
悟人は及美と云々
自ら云々
云々人云々
も可修存云々

子七月九日

石川島故く

忠代

道中印在処所

一 可修人云云

一 可修也

一 可修也

四人撰

三人撰

但門戸云々
も修家云々
云々
云々
右文好云々
一 可修也

但世目多ふと右刻念ふに坊僧多力高きり
世目多ふと坊僧多力高きり
世目多ふと坊僧多力高きり
世目多ふと坊僧多力高きり

一 長形を律

三 長形を律

但念ふ二人世目多ふと右刻念ふに坊僧多力
坊僧多力高きり
坊僧多力高きり
坊僧多力高きり

一 念ふ二人

二 念ふ二人

坊僧多力高きり
坊僧多力高きり
坊僧多力高きり
坊僧多力高きり

一 念ふ二人

三 念ふ二人

一 念ふ二人

四 念ふ二人

但念ふ二人世目多ふと右刻念ふに坊僧多力高きり
坊僧多力高きり
坊僧多力高きり
坊僧多力高きり

坊僧多力高きり
坊僧多力高きり
坊僧多力高きり
坊僧多力高きり

一 念ふ二人

坊僧多力高きり
坊僧多力高きり
坊僧多力高きり
坊僧多力高きり

おのれは及の如く... 柳生之傳心
中川虎房守
和泉守

子二月

右之科和村... 和泉守

流の舟が... 和泉守

子二月

和泉守
藤原守
三橋正

右近将監殿
兵部左衛門殿

此の文は十二月廿五日... 和泉守

一

右之科和村... 和泉守

日同日日也

子代

投書

即代及子代先交合信... 可引身自通了信

一 常一信終... 了信

一 夏冬一信... 了信

但無... 了信

一 道吳... 了信

一 中... 了信

一 在... 了信

但無... 了信

一 信者... 了信

一 或... 了信

一 多... 了信

一 多... 了信

但身... 了信

了信

一 定... 了信

一 如... 了信

一 百... 了信

但此... 了信

一 書體之原字體一の原字は如左なり

一 行位一の字

一 行位一の字

一 個字

一 行位一の字

一 評定一

行位一の字

行位一の字

行位一の字

法部令より行位一の字は如左なり
一 行位一の字は如左なり
一 行位一の字は如左なり
一 行位一の字は如左なり
一 行位一の字は如左なり

一 行位一の字は如左なり

一 行位一の字は如左なり

一 行位一の字は如左なり

一 行位一の字は如左なり

一 行位一の字は如左なり

一 行位一の字

一 行位一の字

一 行位一の字は如左なり

一 行位一の字は如左なり

一 行位一の字は如左なり

一 行位一の字は如左なり

少き中、其の海に流るるものあり、其の流るる所を仰ぐ即ち是
をわたりて、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、
其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、

成十月十二日

右の如く候、但し其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、
其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、

一

衣倉の如く候、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、
其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、
其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、

衣倉の如く候、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、

衣倉の如く候、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、
其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、

衣倉の如く候、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、

衣倉の如く候、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、
其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、

衣倉の如く候、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、
其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、

衣倉の如く候、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、
其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、其の流るる所を仰ぐ、

一

了事又々知りて其旨を達せしむるに如く
何れも利多事毎山々男種を種了るに如く
有るに過て五年一息を待たざるに如く

二月

右に享保十二年に傳知に天竺七甲年再編方
此の當りたるに如く是の年一息を待たざるに如く
其後了るに如く其旨を達せしむるに如く
其に傳知に如く其旨を達せしむるに如く

十日

右に過るに如く其旨を達せしむるに如く

真田氏
御印

